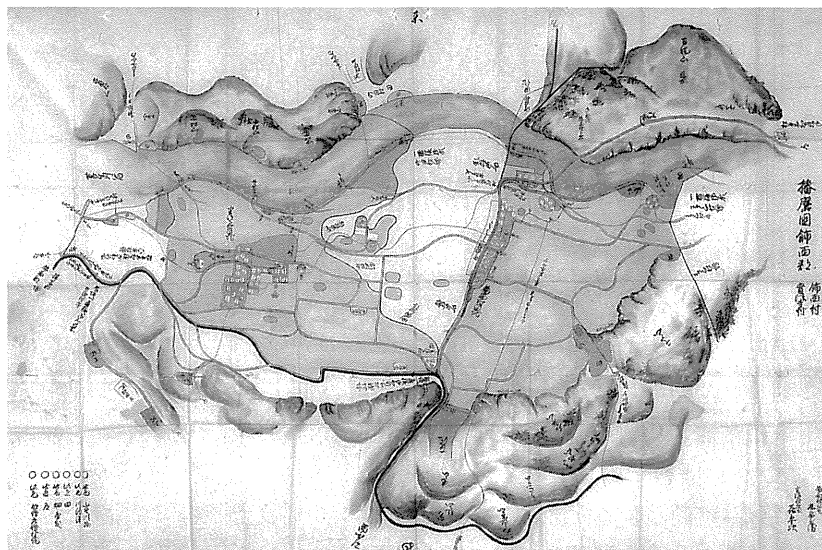




『白鳥地区』をたずねて

「白鳥」の名は、昭和29年姫路市との合併で余部小学校を改名するとき、打越の白鳥池しらとりまたは同池のほとりにあった大国玉神社(白鳥神社)からという説と、平和国家となったシンボルとして「白鳥小学校」と名づけたことによるという説がある。昭和54年に峰相小学校が設立されてからの白鳥地区は、打越の一部と実法寺・町田・飾西・飾西台・西夢前台1丁目・川西台からなり、小学校々区としては青山北一・二丁目が入っている。

当地区はやや東寄りに菅生川が流れ、南端で夢前川と合流し、河川段丘の発達した地形である。旧石器時代から縄文・弥生・古墳時代の遺跡や条里制の遺構が確認され、早くから開けていた。江戸時代初期は、池田氏の姫路藩領となり、のち一様ではないが幕府領・龍野藩領をくり返し、後半期は町田・青山が一橋徳川領、実法寺・飾西・打越が幕府領として明治をむかえた。宝永7年(1710)に開発されたという新田の川西新村は姫路領であった。これらの村は明治22年に余部村に属し、昭和29年に姫路市となった。川西新村は大正6年に川西となった。西夢前台は昭和39年に、川西台・飾西台は昭和47年に誕生した。白鳥地区は自然豊かな農村地帯であったが、経済の高度成長以来急激な開発の手が伸び、ベッドタウンとして市街化が進み自治会数もふえている。

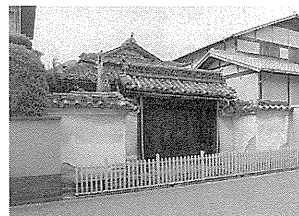


◀延享4年(1747)の 実法寺村・飾西村絵図

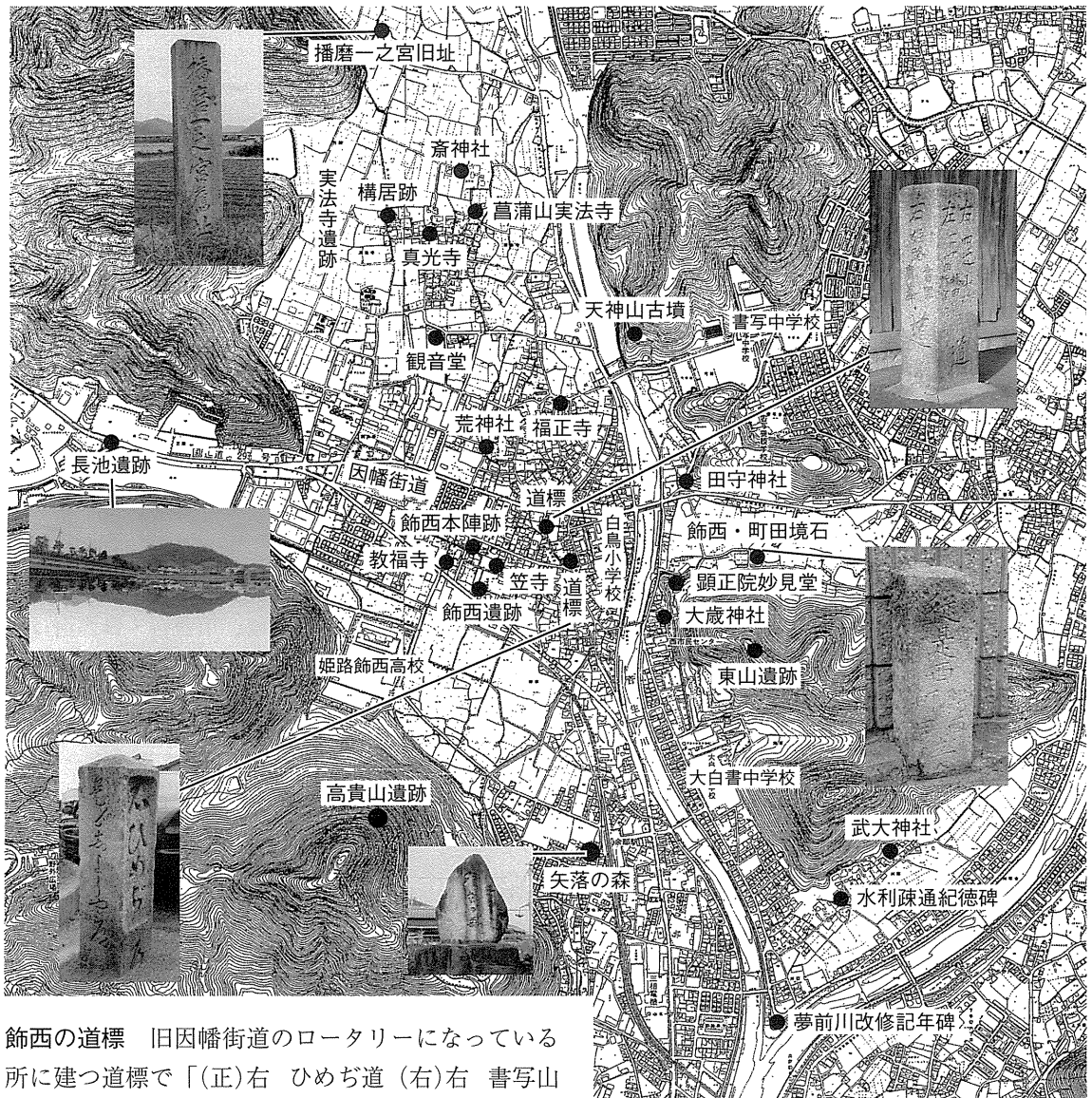
このころの実法寺・飾西は幕府領で、町田は一橋領、川西新村は松平大和守知行所(姫路藩領)とある。

(絵図は左が北)

▼飾西本陣跡(旧中山家)



因幡街道と飾西の宿駅 山陽道の下手野から分岐して飾西を経て石倉・追分を通り、因幡・伯耆・出雲・美作の国に向かう往還が因幡街道とか美作街道とよばれた。飾西の宿駅は寛永年間(1624~44)には成立していたようで、次第に制度も整っていき、実法寺・町田も駅役を勤めた。幕府からの宿助成金と一時的な往来人馬の勿銭が認められたが、18世紀前半には宿駅としての運営が困難となっていた。飾西の本陣は庄屋中山助太夫が勤めた。今も旧中山家の本陣の門・書院は現存している。伊能忠敬は測量に際し、文化10年(1813)助太夫と内海屋才助宅に止宿している。本陣の前あたりに高札場があった。



飾西の道標 旧因幡街道のロータリーになっている所に建つ道標で「(正)右 ひめぢ道 (右)右 書写山道 (左) 是より志よしや道」と刻まれている。ここから北への道は四辻・書写・広峯にも通じた。

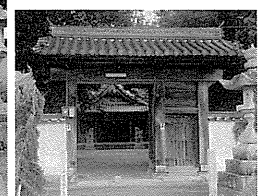
齋神社 実法寺と町田の氏神。むかし播磨一の宮である伊和神社(宍粟郡一宮町)の分霊を総社(姫路市)に勧請するとき、このあたりで休憩されたといい、のちに伊和神社の分霊を勧請して一の宮と称したのははじまりというが不詳。実法寺と六角の境に近い田地の中にも「播磨一之宮旧址」の碑がある。延享4年(1747)の実法寺村明細帳に記載の「一宮大明神社」は当社のことか。今は大和姫を祭って社号を齋神社という。門は宍粟郡安志藩陣屋の総門といわれ、昭和60年の社殿新築のときに門の屋根も葺き替えたが、以前は小笠原家紋の三階菱の軒丸瓦がみられた。境内の明治期建立の「千度石」は特殊なことがらを祈願するためといい、青山の稲岡神社・余部区上余部の三神社にもある。千度詣は古く『吾妻鑑』にもみえる。



齋神社社殿



千度石



齋神社門

菖蒲山実法寺 「北の観音さん」とよばれる。峰相山鶏足寺系の寺院で、菖蒲山の名は実法寺一帯に菖蒲が自生していたことによるといふ。『菖蒲山実法寺再建寄附帳』によると、慶長年間(1596~1615)の創建で伯母山のふもとに本尊の十一面観音を安置していたが、享保年間(1716~36)に現在地に移したという。

実法寺遺跡 実法寺の集落と伯母山の間耕地・用水路から、縄文後期の土器や広範囲に弥生式土器・石器、6世紀から奈良・平安時代の須恵器・土師器が採集された。長期間にわたる複合的遺跡。

真光寺 真宗の寺院で天文3年(1534)教順の開基。はじめは^{そう}想道場といつて実法寺西部の寺谷という林間にあったと伝えられ、正保年間(1644~48)に村内に移し、元禄5年(1692)木仏・寺号を下付され、明和7年(1770)現在地に移った。天保7年(1836)建造の本堂はいたみがひどくなり現在修復中だが、平成12年9月ころには完成予定。

実法寺の構居跡 実法寺集落の北西部の字構におよそ90m四方の広さで周囲が幅1mの溝に囲まれた地がある。今はほとんど宅地となっているが、中世の構居跡ではないかと推定される。『兵庫県の中世城館荘園遺構』はここを「白鳥構居跡」としている。

観音堂 「南の観音さん」とよばれ、曹洞宗の尼寺。同境内に大師堂、弁財天社がある。この北西部一帯の実法寺遺跡から平瓦・丸瓦が発見され、実法寺廃寺跡ではないかとも考えられている。『播磨鑑』によると、実法寺は天文のころ(1532~55)まで存在していたようであるが詳細は不明。

福正寺 ^{ふくしょうじ} 真宗の寺院。寛文2年(1662)祐秀の開基で、文化4年(1807)木仏・寺号を下付されたという。はじめは町田村・実法寺の境にあって開基以来三度本堂を造築したというが、いたみがはげしくなり昭和12年少し北の当地に新築した。

荒神社 実法寺の地神で「^{かまど}竈神社」とよばれ、火災を防ぐ神様として敬われてきた。拝殿に伊勢へ参宮した人達が明治36年に奉納した「七福神図」などがある。社の裏に赤松氏の家臣川口三郎太夫と助四郎主従が戦いに敗れ、逃がれて実法寺に余生を送ったという伝承を記した碑と横に五輪塔がある。

天神山古墳 実法寺東にある天神山南西尾根上に築造された全長約40mの前方後円墳。上下二段の石垣状の列石が後円部をめぐっている。墳形からみて前方後円墳では古い部類のものという。主体部はすでに盗掘されたらしく、遺物はわからない。

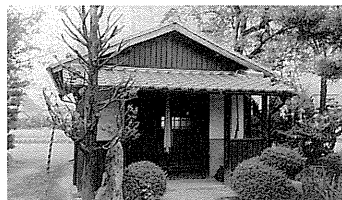
田守神社 町田の氏神。嘉永5年(1852)の石灯籠に牛頭天王社・田守大明神とある。拝殿には明治8年(1875)の「奉額結冠句一千余吟集」や明治45年伊勢参宮をした8人が土井信継絵馬師に描かせた「義経弓流」の絵馬などが奉納されている。鳥居左の石碑は、町田が実法寺から分村したことを記したもので、はじめ町田橋東詰に建てられていたが、平成11年当地に移した。



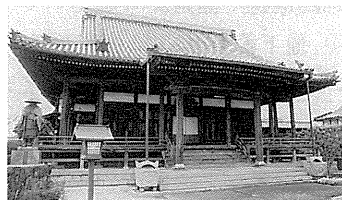
菖蒲山実法寺



真光寺 (修復前)



観音堂

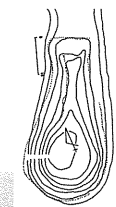


福正寺

川口三郎太夫
・助四郎主従
の伝承碑



荒神社



実法寺天神山古墳発掘図
(上田哲也氏実測)

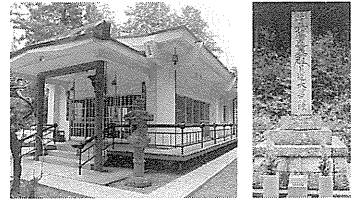


天神山古墳を望む



田守神社

飾西の大歳神社 菅生川東岸の山麓にあって飾西の氏神。宝暦10年(1760)の石灯笼、文化10年(1813)の石鳥居、西岸に嘉永5年(1852)石灯笼がある。明治38年に焼失し翌年再建したが、いたみがひどくなり全面的に新築し平成12年9月完成予定。



妙見堂

題目塔

顕正院妙見堂 飾西の大歳神社の北にあり、妙見菩薩を祭る。本陣の中山助太夫が文政年間(1818~30)にこの寺を開き、その息子が本堂を建てたという。境内に寛政6年(1794)の題目塔がある。



笠 寺

笠寺 「お薬師さん」とよばれている。貞和4年(1348)の『峯相記』に笠寺薬師とみえ、『播陽古跡便覧』には播磨大掾延昌の建立で薬師堂九間四面とある。古くは飾西の西にあったが、のち現地に移されたという。延享5年(1748)の『播州古処拾考』に、追っ手を恐れた旅人が当寺に入り薬師を念じ経をよむと、身代わりになって笠をいただいておられたので寺号とした話などを記している。



教福寺

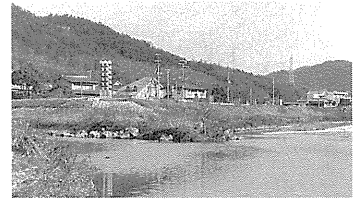
教福寺 飾西にある真宗の寺院。はじめ村の西部、寺屋敷の地にあって天台宗であったが、永正年間(1504~21)寺僧明栄が本願寺実如の弟子となり、天文3年(1534)本願寺証如より阿弥陀如来画像を請けて今の地に移った。



飾西遺跡出土弥生式土器
(松本正信、加藤史郎共著)
〔土に埋もれた文化財〕

飾西遺跡 国道29号線沿いで、昭和43年の電々公社ビルの新築工事中、地下約2mのところまで甕・壺などの弥生式土器が多数出土した。いずれも3世紀ころのものと考えられ、姫路市内ではこの時期の低湿地遺跡としては代表的なものの一つである。

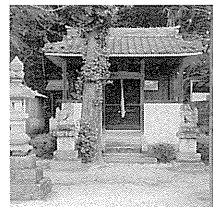
東山遺跡・高貴山遺跡 いずれも弥生時代中期の遺跡で、姫路の高地性集落を代表する遺跡である。飾西の東山遺跡では、弥生式土器の他に石斧や多量の石鏃が出土し、西の高貴山遺跡ではV字溝が確認されている。



菅生川と夢前川の合流地

長池遺跡 飾西の長池の底から、旧石器時代の横剥ぎ形のナイフ形石器などが出土した。

菅生川と夢前川 かつて夢前川は旧飾西郡御立村から南流していたが、横関に堰を設けて流れを替え菅生川と合流させた(明暦元年か)。この工事で向山の南面に土砂が堆積した土地を夢前川の西にあたるので川西とよぶようになった。この土地の開発は宝永7年(1710)西延末村の孫右衛門によって行われたと伝えられる。



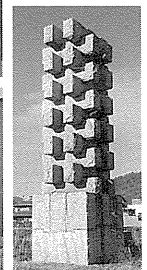
武大神社

武大神社 川西の氏神。『飾磨郡誌』には牛頭天王社ともあり、村を開発したところに広峯神社から分霊を勧請して当社を建立したものであろうか。文化10年(1813)の御神灯がある。

水利疎通紀徳碑 川西新村は灌漑用水が十分でなかったが、明治8年中島惣八・長谷川重次郎が2年がかりで水路を開いた。その徳を顕彰した碑である。水路は北の田井からつけられた。



水利疎通紀徳碑



夢前川改修記念碑

夢前川改修記念碑 昭和35年から57年の22年間をかけて夢前川(京見橋~書写橋)と菅生川(合流点~宮前橋)の夢前川整備事業の完成を記念した碑。